

学校概要

創立 142 周年	学校長 宮田 肇子	副校長 益子 照正	学期 3 学期制	児童・生徒数 469 人
学級数 一般級: 15 個別支援級: 3			主な関係校: 浦島丘中学校	

学校教育目標

【 自分らしさを発揮し、生き生きと学び合う子どもの育成 ～ 輝き学び合う神奈川の子 ～ 】

知 自分や友達のよさを認め合い、主体的に学び、豊かに表現し合う子どもを育てます。
 徳 礼儀や善悪の判断を身に付け、まわりの人と豊かにかかわり、自他の生命を大切にすることを育てます。
 体 健やかな心と体をもち、めあてに向かって最後までたくましく取り組む子どもを育てます。
 公 神奈川の「まち」に生きる人々から学び、共に自分の「まち」を大切にしていける子どもを育てます。
 開 誰とでも伸びやかに交わり、視野を世界に広げ豊かに生きる子どもを育てます。

学校の特徴

28年度創立141年を迎える。東海道の神奈川宿として、近年は京浜工業地帯の中心として繁栄してきたまちにある。工場の移転により児童数が激減した時期もあったが、現在はその跡地に大型集合住宅ができ、多くの児童が登校している。■学校にいろいろな要望をしてくる保護者が多く、給食室の工事のための弁当を依頼した時には苦情が多く出た。□学区には、JR東神奈川駅があり京浜東北線と横浜線、京浜急行線の仲木戸駅、神奈川新町駅、子安駅の3駅があり、学校はその南端に位置する。正門の前には、国道15号線があり、高速道路の東神奈川ICがあるなど、大変交通の便がよい。□25、26年度は、国立教育政策所教育課程・家庭科の研究指定校として、家庭科の授業提案と研究提案を全国に向けて行った。

学校経営中期取組目標

学校教育目標を実現するために、活力と魅力にあふれた学校づくりをめざします。
 ○ 児童一人一人に応じた指導と評価を行い、確かな学力を身に付けさせます。
 ○ 人権研修やコンプライアンス研修などを積極的・計画的に実施し、人権感覚が豊かで危機管理意識の高い職員を育成します。
 ○ HPや学校便りの充実をめざし、保護者・地域に開かれた学校づくりに取り組めます。
 ○ 幼・保・小・中学校との連携を推進し、児童の育成を12年間のスパンで見通して育成するようにします。
 ○ 食育の推進と小学校家庭科教育の充実のために研究を重ね、授業提案を行います。

小中一貫教育の取組

浦島丘中学校 **ブロック** : 浦島丘中学校、浦島小学校、子安小学校

9年間で育てる子ども像 「地域に根ざし、主体的によりよく生きようとする子どもの育成 ～ 他と共生し、プロセスを大切にできる心豊かな人を目指して～」

自校の具体的取組

○ 年間2回の合同授業研究会を通して、小中の教育課程の見直しと連携の回り方について研修を行います。
 ○ 4校合同の研修会を通して、児童・生徒指導上の課題について話し合い、課題解決をめざします。
 ○ 様々な機会を通して職員の交流を進めるとともに、各行事を通して、児童生徒の交流を推進しました。
 ○ 学校・家庭・地域・関係機関が連携し、子供たちのための「まちとともに歩む学校づくり」を進めています。

重点取組分野

取組目標

具体的取組

確かな学力	授業時数の100%確保し、基礎基本の定着を図り、わかる授業に努め、児童の実態に応じて少人数指導に取組み、学力の向上を図る。	・基礎的・基本的な学力の定着をはかるために、朝のモジュール学習を実施する。 ・特に習熟の浅い児童には、その児童の課題に沿って、取り出しによる学習支援を実施する。 ・思考力や表現力を身につけるために、課題解決学習に軸を置いた授業を行う。
担当 学習指導部		
豊かな心	全職員で道徳教育推進に取組み、豊かな心の育成を図る。道徳の授業を充実させ、よりよい人間関係をつくる意識を高める。	・道徳の授業研究に取り組み、一人ひとりが自分を見つめ、思いを伝え合える学びを充実させていく。 ・全校遠足や運動会などの行事を通じ、年間を通して縦割り班活動を実施していく。
担当 人権・道徳部		
健やかな体	健康や体力向上の大切さを理解し、運動に親しむ資質や能力を育てる。栄養教諭や養護教諭を中心に食育の推進を図る。	・単元を系統立てて体育科の授業を計画し、体力の伸びを感じられるような授業を実践していく。 ・体育的行事やイベントを年間を通して計画的に実施する。 ・給食を「食育の時間」と考え、食を楽しみながら、健康的な生活ができるようにする。
担当 体育・保健部		
いじめに関する項目	一人一人の児童に寄り添い、児童理解に努める。いじめについての研修を計画的に行い、未然防止と早期発見、早期解決を図る。	・教職員全員がチームとなり、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。 ・児童間のトラブルなどがあった場合、事実関係や対応方法などを記録することで、児童の交友関係について長期的な視点を持ち、学年をまたいできめ細かな対応を取れるようにする。
担当 児童指導部		
特別支援教育	個々の特性に応じた指導を進める。深い児童理解と職員全体の情報交換を行い、計画的・意図的に指導を行う。	・発達障害等について研修を行い、それらの特性についての理解を深める。また、日常的に児童についての情報交換を行い、共有する。 ・個々の特性に応じ、支援計画や教育計画を立てる。
担当 特別支援教育担当		
キャリア教育	地域や保護者の協力を得て、働くことの意味を理解し、職業観や勤労観を育て、将来の夢をもちよりよくしようとする心情を育てる。	・社会科や総合的な学習の時間を始め、各教科で横断的に社会の一員としての自分について考えることができるようにする。 ・自己肯定感を高め、向上心をもって、自分の将来像を描けるように、児童との日々の関わりを大切にしていく。
担当		
学校運営協議会	学校運営協議会の活動を広く周知し、保護者の協力を得るようにする。開かれた学校づくりに向けて、様々な情報発信による学校理解を推進する。	・地域、保護者、教職員が一体となり、とともに児童を育成するための主軸とするための組織づくりをする。 ・学校運営における実情を積極的に公開するとともに、委員からの意見を集約し、よりよい学校を目指す。
担当 教務部		
人材育成・組織運営	メンターチームを充実させ、学習指導と生活指導の実践力を高める。キャリアの職員がミドルリーダーの育成とメンターの教師力を高める。	・若手職員育成のためのメンターチームの編成及びニーズにあった研修を実施する。 ・学年研及びブロック研の時間をしっかりと確保し、教職員集団がチームとしてスキルアップできるようにする。
担当 人材育成部		